キャラクター名: 源田　翔鳳

プレイヤー名:

シンドローム	モルフェウス オルクス	ワークス	マフィア	カヴァー	何でも屋
オプショナル		年齢	40	性別	男
覚醒	償い	衝動	破壊	初期侵食率	34 %
出自	義理の両親	経験	永劫の別れ	邂逅	高山　正弦

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	3	1	0			4
精神	1	0	0			1
社会	3	0	0			3

HP	23
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚			意志			調達	1	
運転：	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハンドレッドガンズ	射撃	4r+1	ー	Lv+4+5(+5)		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
サイドリール	
インフィニティノヴァ	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
【13】復讐者/アヴェンジャー	P	N		
【43】錬金術師/アルケミスト	P	N		
高山　正弦	P　尊敬	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ハンドレッドガンズ	1	3	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：	武器作成							
砂の加護	5	3	オート	視界	単体	自動	ー	
効果：	判定＋（Lv＋1）D、1回/1R							
ペネトレイト	1	3	メジャー	武器	ー	対決	ー	
効果：	装甲値無視、判定ー1D							
ギガンティックモード	1	3	メジャー	武器	範囲（選択）	対決	ー	
効果：	対象範囲（選択）変更、判定後武器破壊							
ジャイアントウェポン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：	ハンドレッドガンズ攻撃力							
ストライクモード	3	6	メジャー	ー	単体	対決	80%	
効果：	攻撃力+LvD、判定後武器破壊							
オーバーロード	1	7	オート	視界	単体	自動	80%	
効果：	攻撃力＋（使用武器の攻撃力）、メイン後武器破壊							
コンセントレイト：モルフェウス	2	2	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：	C値ーLv							
メモリー：源田晶子	1							
効果：	バックトラック時侵食値ー10点							
メモリー：源田仁	1							
効果：	バックトラック時侵食値ー10点							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								

裏社会を練り歩くフリーのイリーガル。元々は鴻央会に属するやくざ者であったが、とある目的のために組織を抜け、それからは様々な組織に腰を掛けている。オーヴァードの力がそれほど認知されていないため、不死身に近い身体ととめっぽ強い腕っぷしをもつ彼を手元に置いておきたいと考える組織は少なくないが、そのような魂胆が見え透いてくるころには彼は巣をたっている。彼の行動原理が自分の家族を殺したオーヴァードへの「復讐」であることに勘づき、それを餌に彼を利用しようとした奴は現在この世にはいない。

親に捨てられヤクザに拾われ、一人前になり家庭を持つ。おまけに何の因果か妻と子を誰かに惨殺される。ここまではよくある半生の筋書きなのだが、唯一異なるのは殺害方法が銃や刃物といったよくあるエモノによるものではないということと、それを彼に見せつけるために家族の肉が用いられた、ということである。詳細は彼と鴻央会の上層によって隠匿されているが、妻を殺し、娘を嬲ったのはまるで身に着けた異能力を見せびらかすかのようなガキくさい奴だ、ということである。鴻央会の恩や漢としての在り方、復讐に残りの半生を費やす無意味さを差し引いても、自分一人の手でそのガキをこの手で殺したいという衝動にかられた彼は、高山正弦の前で自身の左手を切り落としてケジメとした。

それが彼のオーヴァードへの覚醒のきっかけとなった。現在の彼は落とした左手ごと拳銃を顕現させ、その銃を乱射して敵を蹴散らすというスタイルをとっている。下手な鉄砲も数撃ちゃ当たるとまでは言わないが、なんとなしになげやりで狙いの雑さが目につく。仇のガキを見つけ、この手で殺すために危険な山に足を突っ込んでいる彼のバックボーンを照らし合わせてみても合わせてみると違和感が残るであろう。それは、彼がもうすでに復讐すらどうでもよく、死ぬに死ねない自分にふさわしい死に場所を求めていることを暗示しているのかもしれない。